

N I E教育の実践

曾於市立大隅中学校

1 はじめに

本校は平成24年度よりN I E教育の実践校に指定されており、今年度で4年目を迎える。実践4年目といっても、毎年職員が転退職により入れ替わるなかで、取り組みをより発展的なものにしていくというよりは、共通理解を図り、実践を継続していく方向で4年間すすめてきた。実践1年目は、何をしてよいのかわからないまま手探りで数名の担当で実践をすすめた。2年目からは、一部の担当者だけでなく全校体制で実践をすすめようという動きができてきた。

そこで今年度の本校のN I E教育の目標は、「全校体制による新聞活用」に決め、教師側と生徒側の目標を下記のように設定した。

全校体制による新聞活用

- | | |
|----|--|
| 教師 | ① 教材としての活用を授業内で行う。
② 生徒が新聞を読む習慣を身につける動機付けを図る。 |
| 生徒 | ① 新聞を読もう。
② 新聞で学ぼう。 |

2 実践計画

N I E教育の係会で実践計画案を立て、4月職員研修で、年間購読計画とともに下記の実践計画を職員に示し、共通理解をはかった。全校体制をテーマとしているので、現行の教育課程のなかで、職員が取り組みやすくなるように工夫した。

(1) 各教科領域での授業内での新聞活用

全職員が各教科において新聞記事を教材とした授業実践を1回ずつ行う。教材としての授業展開での位置づけは問わない。研究授業はない。

すべての授業実践はデータとして保存する。「新聞名・年月日」は必ず保存する。記事はスキャナーで取り込み下記の様式で保存する。

- | |
|--|
| 1: 授業のどの場面で使ったかを示す。
(授業の略案でも可。その際には使用場面を口で読むなどして分かるようにする) |
| 2: 記事の添付 (スキャナーで) |

(2) 展示コーナーの充実

生徒玄関の提示スペースを各教科に割り当て、教科で更新掲示していく。月2～3回が望ましい。提示物は各教科の責任とする。教科以外に特設するコーナーとして生徒会(学習部)、学校(管理職)を設ける。計12コーナーに分類される。

(3) 学校行事や総合的な学習の時間での生徒による新聞づくり

2年部、3年部が担当し、「職場体験学習」と「修

学旅行」の学習のまとめを下記の新聞形式です。特に総合的な学習の時間には「N I E」の位置づけがされているので、その方向でまとめ仕上げさせる。

学 期
氏 名

(4) コンクールへの参加

長期休業中の課題としてコンクールに全校生徒で参加する。

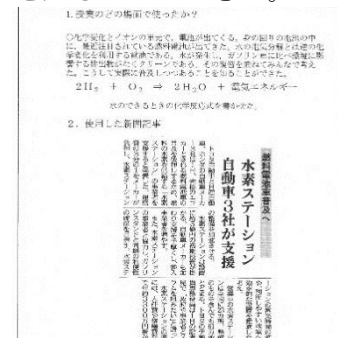
3 実践の内容

(1) 各教科領域での授業内での新聞活用

各教科領域での授業実践を行った。新聞記事を用いることで、生徒はより身近な問題として課題をとらえ興味・関心を深めながら学習することができた。

① 3年理科「化学変化とイオン」(7月9日実施)

化学変化とイオンの単元で、電池が出てくる。身の回りの電池の中に、最近注目されている燃料電池が出てきた。水の電気分解とは逆の化学変化を利用する電池である。水が発生し、ガソリン車に比べ環境に影響する排出物がなくクリーンである。その復習をかねてみんなで考えた。こうして実際に普及しつつあることを知る事ができた。

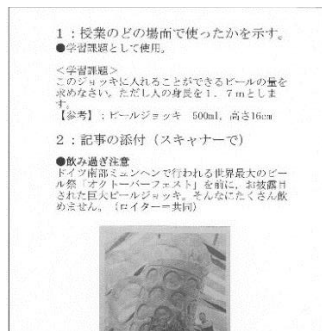


② 3年数学「相似な立体の体積の比」(9月18日)

学習課題として使用した。

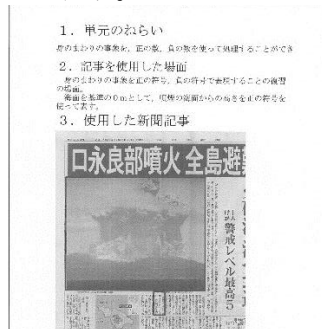
このジョッキに入れることができるビールの量を求めなさい。ただし、人の身長を1.7mとします。

【参考】ビールジョッキ 500ml, 高さ16cm



③ 1年数学「正の数、負の数の活用」(5月30日)

身の回りの事象を正の符号、負の符号で表現する。海面を基準0mとして、噴煙の海面からの高さを正の符号を使って表す。



④ 3年社会「地球温暖化とその国際的な対応」

1995年から開催されている気候変動枠組条約の締結国会議(COP)の今年の記事を紹介した。教科書には1997年の第3回の京都会議の内容が紹介されている。



⑤ 2年美術「浮世絵の魅力」(4月18日)

日本の伝統的芸術「浮世絵」について学び、その技術の奥深さや作品・作者の魅力について学び、日本美術への理解を深める。

浮世絵の代表的な絵師「葛飾北斎」について説明する際、「富嶽三十六景」の説明に合わせて新聞記事についても触れた。



⑥ 1年美術「マークをデザインしよう」(11月)

2020年東京オリンピックのエンブレムデザイン

ンをテーマに、日本の魅力や良さを考え、マークとしてデザインに落とし込むにはどうすれば良いか。発想構想能力に重きをおいて授業を展開した。また、エンブレム盗用問題にも触れ、知的財産の価値や著作権にも触れる機会として本記事を活用した。



⑦ 2年道徳「基本的人権の尊重」

夫婦別姓に反対か賛成かを考えさせ、人権について考えさせた。



⑧ 朝の会「避難訓練」

避難訓練を予告なしで実施するにあたり、本記事を用いて間接的な意識付けをはかった。



⑨ 1年道徳「友情・信頼」(1月20日実施)

導入部分で、「はなちゃんのみそ汁」の松尾陽一さんとの友情エピソードを紹介し、友情について考えるきっかけを持たせた。



(2) 展示コーナーの充実

全校生徒が毎朝通る生徒玄関スペースに、NIEコーナーを設け、新聞を読む動機付けをはかった。新聞記事は各教科に関連のあるものとした。授業で

紹介できなかった新聞記事もここで紹介することができた。各教科の記事の内容については以下の通りである。生徒玄関では、足を止めて新聞を読む生徒の姿を見かけた。また、生徒会の生徒が選んだ新聞記事もあり、生徒自身が興味のある記事も掲載することができた。



＜掲示記事＞

＜国語＞

はやぶさ 2 打ち上げ、沖縄不戦の誓い・戦後、70 年「慰霊の碑」辺野古中止知事訴え

＜社会＞

18 歳選挙権成立、集成館世界遺産へ、法隆寺金堂壁画科学調査へ

＜数学＞

全国学力テスト福井の工夫グーパー体操

＜理科＞

関東地方活断層 24 本 M6.8 超恐れ、桜島、噴火警報、箱根山有感地震相次ぐ、平川動物公園カワウソの赤ちゃん

＜音楽＞

鹿児島国文祭 2015、大口南中閉校式六龍・太鼓披露

＜美術＞

曾於市イメージキャラクターそお星人

＜保健体育＞

インフルエンザワクチン、判断迷っても心肺蘇生を、紫外線熱中症情報

＜技術＞

都市農園センターコスモス見頃、若い目「大変だった田植え」、サイト改ざん通販へ誘導

＜家庭＞

郷土菓子に熱烈ファンもなんたん市場（南大隅町）、兄弟島支援の輪屋久島住民食材持ち寄り手料理

＜英語＞

はじめようリベンジ英会話、若い目英語は人をつなぐ言葉

＜学校＞

危険な自転車許しません、生徒が弁当手作り吉田北中親への感謝実感、NIE 実践校大隅中

＜生徒会＞

岩魂最後までボクシングと電気工事来春閉校の岩川高生全国九州大会へ



＜教室＞

また、生徒玄関の掲示スペースは各教科に関連のある記事しか掲示できないため、学級担任として、生徒に注目して欲しい記事は教室に掲示した。こちらも生徒がよく見ており、教卓に置いてある新聞を生徒が手にとって読むようになるきっかけになった。

教室に掲示した記事は、『パリ 包む悲しみ』『弥五郎どん 岩川高に別れ』『高校生の政治活動 文科省が容認通知』『サッカー女子 W 杯 無失点に笑顔』など生徒が興味のある記事や読んで欲しい記事にした。



（３）学校行事や総合的な学習の時間での生徒による新聞作り

3 年生の「職場体験学習」、2 年生の「修学旅行」で学んだことをそれぞれ新聞形式にまとめ、文化祭で展示発表した。新聞作りをすることで新聞のレイアウトを学ぶ機会になった。



職場体験新聞



修学旅行新聞

(4) コンクールへの参加

全校生徒で「第5回読むのびコンクール」へ参加した。新聞を購読していない家庭もあるため、生徒玄関NIEコーナーに新聞を用意し、持ち帰ることができるようにした。冬休みの課題としてこのコンクールに参加した。コンクール応募を通じて、1つの新聞記事から親子で意見交換をすることができた。



4 おわりに

展示コーナーや新聞づくり、コンクールへの参加などの活動をする中で新聞に親しむ場が多く持てるようになった。生徒たちは普段から新聞を目にする機会が増え、教室に置いてあるにも手を伸ばすようになり、日常会話の中で新聞をもとにしたコミュニケーションも増えてきた。生徒が新聞を読む習慣の動機付けになったと感じる。

また、授業内で新聞を教材として扱うことで、教科書の内容をより身近なこととしてとらえる機会ができた。

担当者としてNIEの実践をすすめていくことに不安や心配もあったが、本校の先生方の協力のおかげでNIE実践校として、「全校体制による新聞活用」に取り組むことができた。

今年度は、さまざまなNIE教育の実践をすすめることができたが、新聞活用の活動と生徒の学力向上の関連性についての研究は不足しているように感じる。次年度は生徒の実態についても把握しながら取り組みをすすめたい。